



万全の準備をすること

次長 目崎 淳

私の好きなことの一つに「地図を見ること」があります。3年生になると配られる「地図帳」、書店等で購入できる「ロードマップ」、ハイキングや山歩きの方も手にすることの多い「地形図」、車やスマホの「マップ」などいろいろありますが、どの地図もよく見ます。そのくらい好きです。好きが高じて、過日「マップリーダー」という資格を取得することができました。

北海道の東部に別海町という自治体があります。おそらく多くの方は、この地名を聞いてすぐに場所が一致することは少ないのではないかと思います。



空路を利用しても札幌から4時間程度かかる場所と言い換えれば、なんとなく想像できるかもしれませんが、人口は1万4千人程度ですが、その約8倍もの数の牛が飼育されています。また、このあたりは国内でも有数の「寒い土地」であり、この寒さを利用した産業が町内で行われています。

先日、とある放送を聞いていると、この町でマラソン大会が開かれることを耳にしました。確かに、マラソン大会や駅伝は大抵冬季に行われていることは知識として知っていました。しかし、国内でも有数の酷寒地として知られる町でマラソンが本当に実施できるのか疑問に感じていましたので、その放送を最後まで聞き続けました。すると、その疑問は解消したと同時に驚きがこみ上げてきたのです。その理由は、大会公式HPの文章の方が伝わるので以下、引用させていただきます。

* * * * *

寒いからこそ出来ることがある。ここだからこそ出来ることがある。

酪農、漁業と自然資産に恵まれた別海町は、北海道らしい広い大地を感じさせてくれる場所。

そして冬の間は流水が押し寄せ、全面が氷つく野付半島という独特の景色が広がる。

こんな日本でも稀にみる場所をもっと多くの方に知ってもらいたい、体験してもらいたい。

そのためにここでしか出来ない体験を提供できないか。

こんな思いから生まれた陸を走らないマラソン「ICE MARATHON」。

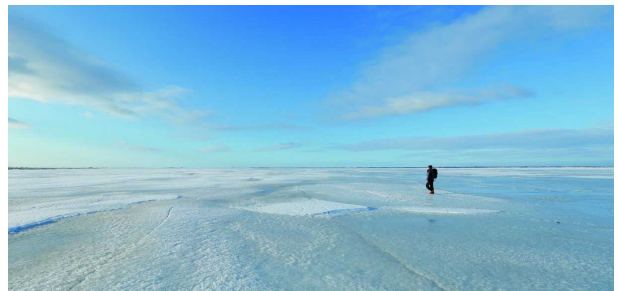
マイナス20度の世界で氷の上を走るという日本でも前例のないスポーツを、北極冒険家 荻田泰永氏とトライアスロンの第一人者でアドベンチャーレーサーでもあった白戸太郎氏の監修のもとで開催。

人間はどこまでタフになれるのか！？

(icemarathon.jpより引用)

* * * * *

この大会は、「日本初！」凍結した海上を走るマラソンとのこと。厳寒の地ゆえ、氷の厚さは数十センチに達するため、スノーモービルが走行しても問題ないそうです。



【視界一面真っ白に凍った海の上を歩けます】

今まで誰も取り組んだことのないことをやるということは、相当の覚悟がなければできないと思います。初めて取り組むのですから、念には念を入れ、万全の準備をして大会を開催します。同時に、この大会に参加する選手の人たちは未知の大会で42.195km走るということに万全の準備をして、大会当日に臨むことでしょう。そして走り終わった後に見える絶景もまた格別でしょう。これは走りきった人だけが見られる景色だと思います。

さて、明日から2月。6年生は中学受験が本格的に始まります。毎日、毎日、がんばってきたことを胸に、自信をもって臨んでほしいと思います。在校生は、3学期に登校する日数が残り34日となりました。学びの仕上げの時期です。しっかりと取り組み、心も身体も万全の準備をして、次の学年に進級してほしいと思います。